

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

熱、のど、鼻に、利下げが効く (P2)

チーフカスタマーディーラー
井口 慶一

今週のドル円予想レンジ **107.50 ~ 109.50**

りそなWEEKLY COLUMN

感情が相場を動かす - 人工知能ブームの時代 - (P3)

りそな銀行 総合資金部 市場トレーディング室
ディーラー 藤井 俊彦

- 人工知能の予想ロジックとは
- 相場は複雑系
- トレーダーは想像する

2019/11/5

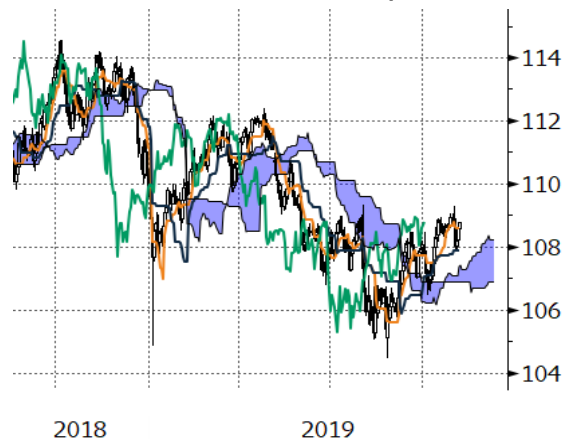
りそな外為レポート

熱、のど、鼻に、利下げが効く

今週のドル円予想レンジ **107.50 ~ 109.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表 (日足)



◆為替相場のすすめ

7月と9月に続きFOMCでは3回連続となる0.25%の「予防的」利下げが決定された。貿易摩擦の不透明感が主な理由だが、加えてマーケットの催促と世界の覇権争いのライバルである中国の脅威を警戒するトランプ政権への配慮も少なからずあったのではと想像される。米株が史上最高値を更新し気力体力十分な中での「予防接種」3回。警戒する米中貿易戦争によるインフルエンザが流行しなかったなら、冬場に「効いたよね、早めの利下げ」、「ありがとう、いい利下げです」などと言いながら株式市場は一段高となるのかもしれない。

次の注目イベントだったAPECが中止となり、米中閣僚級協議での部分合意の署名への不透明感が台頭としているが、トランプ政権は同時期の署名を目指すとしている。目先のドル円は方向性がはっきりしない展開となる可能性があるが、過去10年の11月はドル円が7勝3敗、日経平均が8勝2敗で上昇とリスクオン傾向の季節性がある。足元の下押し局面は買い場と捉える投資家も多いと想定され、ドル円の下値も限定的と見ている。(チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

◆今週の日程

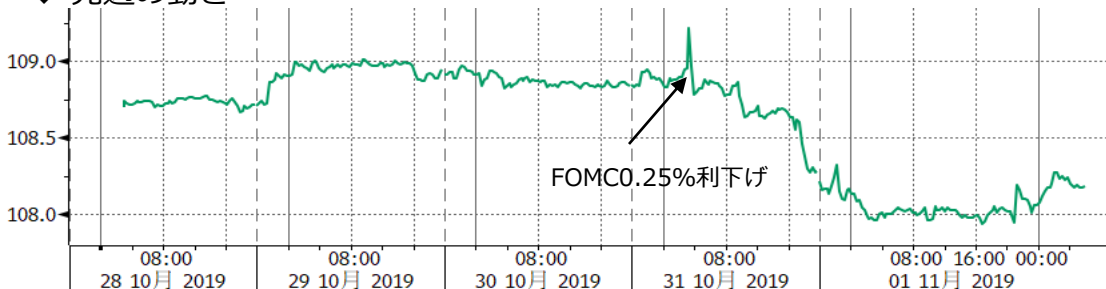
5日(火) 米 9月貿易収支
5日(火) 米 10月ISM非製造業
5日(火) 米 3年国債入札
6日(水) 日 日銀金融政策決定会合議事要旨
6日(水) 米 10年国債入札

7日(木) 英 BOE金融政策委員会
7日(木) 米 30年国債入札
8日(金) 中 10月貿易統計
8日(金) 米 11月シガン大消費者信頼感指数
9日(土) 中 10月CPI・PPI

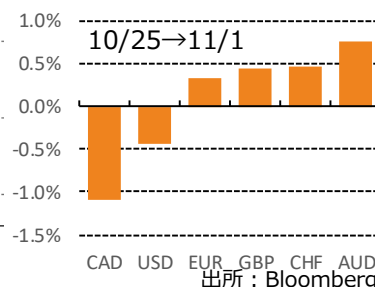
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 11月1日(金) 108.19円 VS 8日(金)

東京								大阪				埼玉				
尾股	中根	湊	井口	鳥井	田中	高尾	中里	藏重	佐藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤
↓	↓	↑	↑	↓	休	↑	↑	↓	↓	↓	休	↑	↑	↑	↑	↓

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2019/11/5

りそな WEEKLY COLUMN

感情が相場を動かす - 人工知能ブームの時代 -

- 人工知能の予想ロジックとは
- 相場は複雑系
- トレーダーは想像する

りそな銀行 総合資金部 市場トレーディング室
 ディーラー 藤井 俊彦

森博嗣の小説が面白い

森博嗣という作家をご存じだろうか。大学で工学の研究をしていた人なのだが、副業でミステリ小説を書き始め、デビュー作は「すべてがFになる」。ドラマやアニメにもなっている。

SF小説も書く。戦闘機乗りの話、剣豪の話、いずれもアクションや人間心理の描写がとても面白い。その森氏が最近書き上げたシリーズに、近未来モノのSFがある。

舞台は工学が成熟し、医療が高度に発達した100年以上先の世界。人工の細胞を入れる治療を受け続けることで人が死ななくなった世界。と同時に、子供が生まれなくなった、新陳代謝の無い人間社会。その社会ではウォーカロン (Walk Alone) と呼ばれる、人間とほとんど変わらない人工の人間が活躍している。さらにはひたすら学習を重ねた人工知能という、現在の核兵器並みに取扱いが難しい物も存在する。

物語は研究者の主人公が、人間とウォーカロンとを識別する装置を開発したところから始まる……。これ以上書くと長くなるので控えたい。さて、この物語は文庫10冊のシリーズものなのだが、人間の(思考の)特徴とは何か? というテーマは一貫している。

なぜこの話を持ち出したかという、人工知能である。我々相場の世界にも人工知能ブームが押し寄せているらしいのである。人工知能が発達していくと、トレーダーは要らなくなるのではないか、という話があるそう。確かにブームかもしれない。機械学習の本を書店でたくさん見るようになったな、と思ったら人工知能(AI)という言葉が雑誌で見かけるようになった。ただ、実態は怪しい。相場の世界でいう人工知能は大抵の場合、占い程度のものだ。例えば、過去の相場を適当な間隔で区切っていってそれぞれを1つの現象とする。相場とはそれらが時系列に沿ってたくさん集まったものである。ここまでは良い。ここから飛躍する。それらの現象は「等しい確率で発生する」と仮定する。では実際、過去に起きたことが未来にも全く同じ様に再現されるのか? もちろん、そんなことは無い。自然現象ではなく、人間の行動結果だから再現性が無い。人間の行動には遊びがある。合理的でない生き物の行動は合理的でない。そんな行動が組み合わさってできる相場は複雑な運動をする。複雑系なのである。

人間、ウォーカロン、人工知能が共存する未来。人間とは何か?

人工知能で相場を予想できるか?



りそな WEEKLY COLUMN

相場と天気

相場と天気は似ている。どちらも複雑系だから。ここで重要なのは、複雑過ぎるので完璧な予想をすることができない、ということだ。できるようになったら天気予報も相場も終わりである。「天気予報」ではなく「天気確報」だし、同様に相場の予想も存在しない。そうなったら、「一年後のドル円はXXX円です」という確定した未来を前提に活動が行われることになる。そうなったらトレーダーは要らない。相場が存在しないから。でもそんな未来はありそうもない。ならば今後も完璧な予想はできない。ではどうするか？

長期が難しいなら短期

まずは、短期の予想をすることである。1ヶ月後の天気を予想するのは至難である。でも1秒後の天気ならほぼわかる。同様のことが相場にも言える。1ヶ月後のドル円はXXX円です。これは難しい。しかし1秒後のドル円は？これはわかる。1ミリ秒後ならもっとわかる。1マイクロ秒後ならもっともっとわかる。ならば先のことは考えず、ひたすら次の瞬間のことだけを考えれば良い。近年こういう取引手法が発達した。では、これは人工知能と何か関わりがあるだろうか？全く別物である。わからない未来を予想する、という話ではない。

機械は似た過去を探す

では、やはり1ヶ月後の天気を予想することをやってみよう。天気予報をするとき、「今の気圧配置は過去のこの時とそっくりだ。だから今回も1ヶ月後はこうである。」というのはどうであろう？相場では、「このチャートは過去のこの時にそっくりだ。だから今回も同じ動きになる」という具合だ。そうだろうか？同じになるのなら、こんな楽な商売はない。しかし、これが相場の世界でいう人工知能の実態だ。もちろんチャートだけを判断材料にしているわけではないが、「確率XXパーセントで上がる」、といった場合、根拠は「過去の同様局面（と見做した）100回の内XX回は上がった事実があるから」というものだ。それが悪いというものではないが、決定打にはならない。

トレーダーは想像する

それでは、トレーダーはどう判断しているのか？この答は千差万別だと思うが、私の答えは「相手を想像すること」である。今ここで自分が買ったら、当然売っている相手がいる訳である。よく「買いが多かった」という文章を見るが、買いと売りの数量は常に等しい。だから多いとか少ないとかは考えない。考えるのは、売った相手が苦しいかどうか？である。と同時に自分以外の買いたいと思っている人は苦しいかどうか？も考える。買いたい人が苦しんでいるのか？売りたい人が苦しんでいるのか？既に買った人が苦しいのかそれとも売った人が苦しんでいるのか？真剣に考える。もしこれらのことが想像できなかつたら？・・・その時は自分が苦しむことになる。



りそな WEEKLY COLUMN

感情が相場を揺り動かす

苦しくなくても、嬉しい、とか嫌だな、という感情は誰もが持つと思う。「ああ今日はもう少し安く買えると思ったのになぁ。」という具合に。しかし「しまった！今日はこれ以上高値では買えないけど、でも買わないといけな。どうしよう。」という具合まで来ると苦しい。そういう人がたくさんいると、相場は上がり易く下げ難い。だからそういった感情を大切にす。そしてそれを予想するのだ。それが相場を予想することに繋がる。

結局は人間次第

結局、人間なのである。取引相手が機械です。だから人間の感情は関係が無い。そうではない。その機械を使っているのは人間なのである。その人間の感情や都合次第で機械の設定が決まる。その設定に基づいて機械が取引をする。それは人間が人間の感情に基づいて取引をすることと変わりがない。

人工知能が発達していったら？

ここで話を冒頭のSFに戻そう。人工知能がひたすら学習を積み重ねた未来。ではその人工知能が機械を使えばどうなるだろうか？物語では、電子空間を舞台に人工知能同士の抗争が発生し、結果として人間の生活空間にも被害が出た。では、もしも発達した人工知能が相場の世界に出現したら？それは相場を予想するというよりも、相場を動かす力と力の勝負になるのではないだろうか。相手の行動を予想し、自分が行動することによって相場を動かす。自分の行動結果は相場を通して相手に伝わるので、相手も同様に予想し、行動する。つまり仕手戦である。それもまた、相手を負かしたい、負けたくないという感情なのではないか？

